

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 32

2021年2月1日

日本子ども虐待防止学会 第26回学術集会 いしかわ金沢大会について

2020年11月28・29日にJaSPCANいしかわ金沢大会が開催される予定となっていました。新型コロナウイルス感染症の影響により全国から大勢の方が集まる大会の開催は難しいということとなり、オンラインを中心として（人数制限をかけて会場参加も認める形式）大会が開催されました。私もJaSPCANの大会にオンラインで参加するということは初めての経験でしたので、ご報告させていただきます。

複数のシンポジウムに参加しましたが、特に印象的だったのは、公募シンポジウムの「社会的養護の当事者が考える当事者参画」という企画で、社会的養護の当事者が色々な調査などを行った報告がされていたものでした。その中で、新型コロナウイルス感染症での社会の動きが社会的養護の当事者に厳しいものではないかという指摘でした。例えば、2020年4月の緊急事態宣言で不要不急の外出をせず、交流は家族を中心にしてということが社会的に呼びかけられていました。しかし、これは、社会的養護の当事者にとっては家族によりどころがないため、これまで心のよりどころにしていた家族以外の人との交流を制限されているように感じたということでした。他にも色々な場面で自分たちはどうなるのだろうと不安に駆られることが多かったようでした。

私は、災害に対する取り組みなどにも関わっているのですが、災害をはじめとする特殊な状況においては、多くの人が想定する一般的な市民を想定して議論されがちで、そこからはずれてしまう

人に対する視点が欠けてしまいやすいという、重大な問題を改めて気づかされました。

初めてのオンライン開催だったので、メリットやデメリットについても簡単にお伝えしておきます。メリットとしては、オンラインなのでシンポジウム間の移動も容易で、座席が足りるかの心配なく参加できるというのは良かったです。デメリットとしては、まだオンライン会議に全体的に慣れていない人が多かったという問題です。参加者が音声をオフにせずに参加してシンポジウムの内容を阻害するような雑音を流したり、パネリストが操作を上手くできずスムーズに進行しないことなどがありました。

私自身の反省としては、事前に各シンポジウムの前提となる報告が大会の前から公開されていたのですが、忙しさにかまけてそのような取り組みがされていることを気が付かず、シンポジウムが始まってから気が付きました。本来なら先に報告をみてシンポジウムを聞くことで分かりやすかった内容が、情報が足りず後から報告を確認する状態となってしまいました。

このような社会情勢の中でもできる限り学びの機会を持つことができたことは大変有意義であったと思いますし、大会の準備をされた方々には敬意を表します。2021年の大会がどのような形式になるか分かりませんが、皆さんも機会があれば参加してみたいかと思いますが。

弁護士 砂本 啓介

コロナ禍という、今を生きる私達が経験したことのない新年の幕開けとなりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。未知のウイルスとの毎日に様々な不安や困難もある中、ピピオの活動に関心を持ち、こうして会報に目を通して戴けることに心より感謝申し上げます。

時が経つのは早いもので、子ども達の安全・安心な居場所作りを目指したピピオも、開設して10年が経とうとしています。振り返ってみますと、その間様々な子ども達がピピオを利用し、巣立っていきました。ピピオにたどり着くまでの経緯も様々なら、もちろん子どもたちの個性も色々です。そんな子ども達の中には、独特のスタイルを持っている子も少なくありません。生活習慣であったり、金銭感覚や人間関係の構築、価値観など……どちらかという社会生活を営む上で少し困る、というタイプのスタイルです。それはこれまでの環境の中で習得されてきたスタイルであり、環境からの影響や、環境に順応する為の術だったのかもしれない。子ども達の生き辛さは、たとえ周辺環境が改善されたとしても、まるで二次障害のように子ども達自身の中にも取り込まれてしまっています。そんな子ども達に、より良い生活習慣、自活する為の真っ当な金銭感覚や温かな人間関係を経験してもらおうと、日々子ども達に接し

試行錯誤を繰り返されているスタッフの皆さんのご尽力には、本当に頭の下がる思いです。心身の不調を訴える子どもも、多く居ます。重大な病気ではないけれど慢性的な腹痛や、歯科・眼科・皮膚科への通院はよくあることですし、メンタルの不調にお薬でのサポートが必要な子もいます。子ども達がそれまでの困難な環境から抜け出しピピオでほっと一息つけたとしても、それは自立へのスタート地点でしかありません。そこから、新しい自分の人生を切り開いていくまでには、まだまだ多くの課題が残されています。

これからのピピオでは、この10年の蓄積を基に見えてきた課題にも取り組んでいけたらと考えています。そのためにも、医療・福祉・教育など様々な分野との連携は、これまで以上に必要と思われれます。子ども達の自立を支援する活動がピピオを起点として拡がり、子ども達の為のセーフティーネットの網目が、多様な分野との連携を図ることでより細やかなものとなればと願います。

会報を読んでくださっている皆さまの存在も、社会におけるセーフティーネットの重要な網目の一つだと思います。どうぞこれからも、ご支援ご協力のほど宜しくお願いいたします。

理事 大石 結加

スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフのNです。

2011年にピピオの家が開設して、今年で10年となります。

この間、延べ66名の子ども達と生活を共にして来て、多くの子に共通していると思われる事の一つに食育の問題が挙げられます。

ピピオに入居して来た子に、最初にアレルギーの有無について質問します。勿論アレルギーのものを出す事はありません。次に好き嫌いについて問います。

最初は少なかった嫌いなものや苦手なものが、日を追うごとに増えていきます。時間が経つ事でスタッフとも距離が縮まり、嫌いなものや苦手なものが言える雰囲気になるのかもし

れません。

なるべく希望に添うように、嫌いなものや苦手なものは出さない様にしているのですが、ひとりの子にとっては好物だけど、ひとりの子には苦手…となると苦手な子に合わせ、ピピオの食卓に上がる事は殆どありません。魚料理がその一つです。

また、別の問題として、親の手料理を食べて育った子がどれ程いるのかという事です。

今の世の中、スーパーでもコンビニでも、お金さえ出せば食べるものは手に入ります。惣菜でも冷凍食品でも、美味しいものは幾つもあって困る事は殆どないでしょう。

その事が良いのか悪いのか、スタッフやボラ

ンティアさんが手作りしたものが美味しくないとはいえないが「○○のものが良い。」と言う事が何度かありました。

例えば、唐揚げ。鶏肉にしっかり下味を付けて粉をまぶして揚げてもらったものより、「市販されている唐揚げ粉をまぶして揚げたものが良かった。」とか「○○のコンビニに売っている唐揚げが良い。」等と言う子がいます。

他にも一般的な料理を出しても、何を出されたのか分からず「これは何ですか？」と尋ねて来たりする子もいます。料理名を知らないのか、偏った食べ方をしているのか…聞いた事も食べた事も無いという事も時々あります。

勿論、何を出されても「美味しい。」と言っ

て食べてくれる子も何人もいますが、それぞれに対応するとなると、頭を悩ませます。

ピピオでは、基本的に外出が出来ないので、食べる事は楽しみになります。年頃の子も達なので、太る事を気にしていますが、お腹が空いていてイライラするよりマシな気がします。

ピピオを退居した後で、食事が美味しかった…と言っていたと弁護士さんから聞くと、頑張っって手作りして良かったなあ～と思えます。これからもボランティアさんにお世話になりながら、温かい物は温かく、冷たい物は冷たく、何より美味しく食べてもらえるよう努力していきたいと思います。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。

「はばたけ荘」スタッフのHです。

最初の入居が、平成26年7月、時間の経つのは早いもので6年と半年が過ぎてしまいました。入居中の子どもたちは15歳から19歳までの元気な子たちですが、私は年を取り67歳になってしまいました。

現在は3人入居中で1人は訳あって入院中。19歳の子は定時制高校に通いながら居酒屋でバイト。16歳の子は通信制高校に通いながらハンバーガーチェーン店でバイトです。

ところで、開設当時の子たちと現在入居中の子たちを比べてみますと世の移ろいを感じずにはられません。

スマートフォンの普及により子どもたちはテレビを観ると言うことが殆ど無くなり、ゲームアプリを取り込み、そちらを自分の部屋で楽しんでいるようで、団欒という言葉が無くなってしまったようです。もっとも彼らの育った過程

を考えた場合、仕方が無いのかも知れませんが、これは一つの大きな課題でしょう。

年が違い過ぎ、話が合わないのも面倒なだけかもしれませんが。

また、昨今の新型コロナウイルスのまん延は、はばたけ荘のように集団生活をしていく上で大変な厄介者です。自立する為には学校へ通いながら働かなくてはなりません、感染に伴う色々な規制もあり、思い通りに行かないのが実情です。それでも自分の目標に向かって努力して行かなくてはなりません、男の子というのは何故か、近くにいるスタッフが色々言うと反発したいもので素直にはなってくれません。

ところがたまに顔を合わせるボランティアの方の声には素直に耳を傾けてくれるような気がします。我々とは温かみが違うのだと思います。コロナが落ち着いて来ましたらまた来ていただいて、お声掛けをよろしくお願ひします。

子どもの日記念シンポジウム2021の開催について

広島弁護士会主催の「子どもの日記念シンポジウム2021」が、2021年4月25日（日）午後1時30分から開催されます。このシンポジウムは、毎回、子どもの権利に関わる問題をテーマとして取り上げ、1部は高校の演劇部と弁護士ら「劇団ピピオ」による劇、2部は講演、パネルディスカッションといった構成で開催されてき

ました。

昨年はコロナ感染流行により残念ながら開催が中止されましたが、2021年度はWEB配信による開催をしていくことになりました。

今年はNPO法人ピピオ子どもセンターが設立されて10周年という節目を迎えることから、本年度のテーマは、「子どもシェルターの歩み」と

して開催されることになっております。振り返れば、2010年に開催されたこのシンポジウムで「子どもシェルター」をテーマとして取り上げ、参加された多くの市民の皆様から共感と支援をいただき、その熱意の中で翌年に子どもシェルター「ピピオの家」が誕生しました。

2021年度のシンポジウムはNPO法人ピピオ子どもセンター10周年記念の意義も込め、1部では「子どもシェルター」をテーマにした演劇を映像にして配信し、2部では全国で初めて子どもシェルターを開設したカリヨン子どもセンタ

一の元理事長坪井節子弁護士の講演といった内容で開催する予定にしております。

シンポジウムの開催並びに視聴方法のご案内は、別途チラシなどでする予定にしております。

私どももこのシンポジウムをとおり、法人設立10周年を振り返り、設立当初の熱い思いを思い起こして、新たな決意でさらなる歩みを開始してまいりたいと考えております。多くの方にご参加いただきたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

理事長 鶴野 一郎

ピピオ掲示板

● ● 広島県共同募金会「令和2年度社会課題解決プロジェクト」に参加しています！

ピピオ子どもセンターでは、今年度も広島県共同募金会が実施する社会課題解決プロジェクトの参加団体として活動しています。専用の振込用紙を利用し、社会福祉法人広島県共同募金会に対し寄付していただくと、広島県共同募金会からピピオ子どもセンターに対し配分金を頂くことができます。この募金活動の実施期間は2021年1月から同3月末までです。

詳細は、広島県共同募金会のホームページ（下記URL）を参照してください。

<http://www.akaihane.hiroshima.jp/s-p-s-project2019.shtml##1>

「ピピオの家」と「はばたけ荘」に入居する子どもたちの生活と自立の支援を行っていくために、引き続きご支援をお願いいたします。

● ● 寄付等のご協力ありがとうございました

高井様、山崎様、コストコホールセールジャパン株式会社様、佐藤様、楠本様、檜原様などから寄付金、生活用品等を頂いております。日々子どもたちの生活や自立支援のために活用させていただきます。この場で御礼申し上げます。

● ● 生活用品の募集について

一人暮らしを始める子どもたちへの生活用品の提供についてご協力をいただき、ありがとうございます。現在、次の家電品・家具を募集しています。（家電品は製造から3年以内でお願いします。）

- ・冷蔵庫（高さ110cmくらいまでのもの）
- ・洗濯機
- ・組立式のベッド

ご寄付でいただけるものがあれば、事務局までお知らせください。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル505号
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>